

研究課題番号	2-2008
研究課題名	暗示的炭素価格を踏まえたカーボンプライシングの制度設計：効率性と地域経済間の公平性を目指して
研究実施期間	2020 年度～2022 年度
研究機関名	早稲田大学
研究代表者名	有村 俊秀

1. 委員の指摘及び提言概要

炭素税および暗示的炭素価格に関わる制度を考慮したカーボンプライシングの評価を、地域別および産業別、個人所得別に詳細に行い、炭素削減効果とその便益についてのさまざまな有効な知見と公平性を増大させる施策提案をおこなっており、今後の環境行政に大きく貢献する成果が挙げられている。また、事後検証制度研究 G、モデル構築研究 G を設定して効果的、効率的に研究目標を達成している。国際共同研究も活発であり、国民対話をはじめ積極的な情報発信も行われていることを高く評価したい。ただし、現実の気候変動影響の進行は加速的であり、必要な社会の変革が立ち遅れている。新たな状況に対応して意欲的な研究を引き続き実施することを期待したい。

2. 採点結果

評価ランク：S